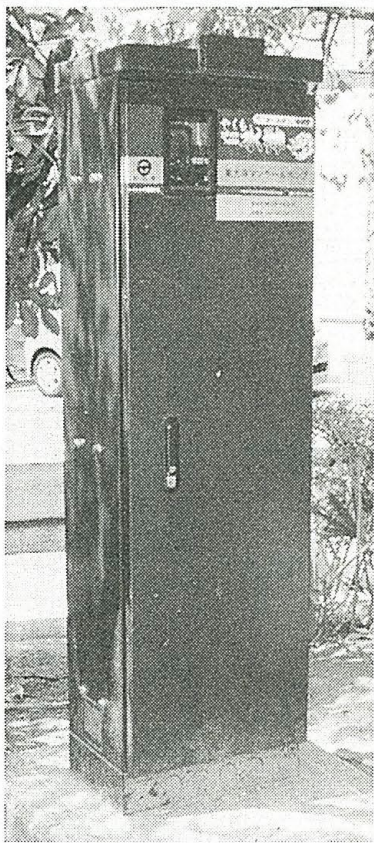


町田市は、3月16～25日に実施された東日本大震災に伴う計画停電を受け、同市で導入していた遠隔監視・操作可能なマンホールポンプ制御盤を活用して、8回に及ぶ計画停電に対処した。

同市は、汚水のマンホールポンプを31カ所に設置、うち23カ所で、遠隔監視・操作が可能な小松電機産業の「やくも水神(マンホールポンプ制御盤)」を採用している。

「やくも水神」はNTTドコモのFOMA網を利用



やくも水神マンホールポンプ制御盤

町田市 計画停電8回に対処

MP23カ所を遠隔監視

したクラウド型の上下水道遠隔監視システム。24時間の遠隔監視・操作が可能で、PCだけでなく携帯電話でも操作が行える。

同市では、平成13年度に「やくも水神」を初導入。従前の制御盤では、音声の

みの警報だったため、警報が鳴ったあとに問題が解決したかどうかは、現場に行き確認しなくてはならなかった。そのため、同市では中央監視装置の導入を検討したが、コストの面から判断した結果、「やくも水

神」の導入を決めた。制御盤の老朽化にあわせて導入をすすめており、今後も導入を推進するという。

同市では、3月16～25日に排水を流さないよう呼びかけるチラシを配布。とくに逆流の危険性のある家庭には職員が戸別に訪問し、趣旨を説明した。

同市では、3月16～25日にかけて8回の計画停電を実施された。停電実施の知らマンホールポンプの槽内

停電実施日には、予定時間の15～20分前に、庁舎からマンホールポンプの槽内



田中主査

道部ではマンホールポンプに接続している各家庭に向けて、停電時間中の下水道

水位を監視しながら圧送操作を行い、停電が始まるまで監視画面をチェックしていたという。停電は予定時間よりも20分ほどずれることがあり、中止の連絡がない場合は、停電するまでマンホールポンプの遠隔操作を行った。停電は早朝に行

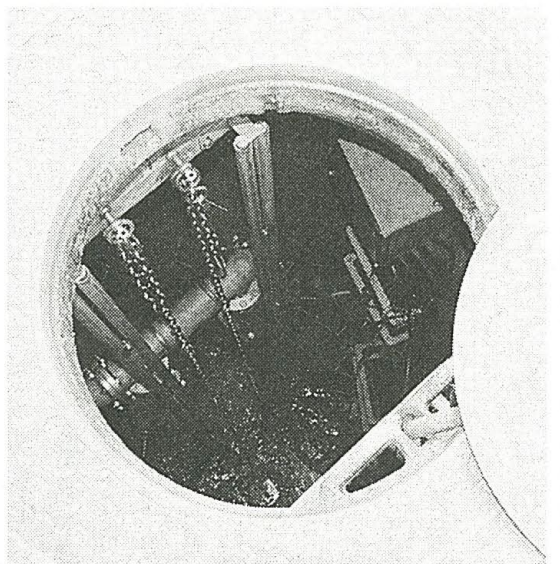
水位を監視しながら圧送操作を行い、停電が始まるまで監視画面をチェックしていたという。停電は予定時間よりも20分ほどずれることがあり、中止の連絡がない場合は、停電するまでマンホールポンプの遠隔操作を行った。停電は早朝に行

われることもあったため、職員が出勤前に携帯電話で遠隔操作を行ったこともあったという。

は、停電前と停電後の水位が目でわかる。今後も更新に併せて導入していきたい。今回の停電には溢水することなく対応できたが、また計画停電が行われるとなると、梅雨の時期などは不明水の影響で流入量が増えるので懸念している。複数のマンホールポンプを一括で操作できるようになればより便利だと思ふ」と話した。

遠隔操作できないマンホールポンプは職員が現地にて、手動で圧送操作。排水量の予測ができないため、排水量の確認を合わせて行った。

同市上下水道部水再生課成瀬クリーンセンターの田中雅三主査は「やくも水神



マンホールポンプ遠隔操作が可能